

令和2年10月30日

金沢市近郊 私立大学等の特色化推進プラットフォーム（私大等 PF）
令和元年度の事業評価について

令和元年度の事業評価については、令和2年3月に評価委員会を開催する予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、評価委員会を開催することができなかった。

令和2年10月7日の意思決定委員会において、教育関係・自治体関係・産業界関係者から個別に外部評価をいただくことを決定し、令和2年10月20日～23日に評価者に対して幹事校からの事業説明・資料提示のもと、令和元年度の事業評価をいただいた。

区分	
教育関係者（国立大学 教授）	
総合評価	評語の内容
B	S：非常に優れている A：優れている B：妥当である C：やや不十分である D：不十分である
評価に関するコメント	
<p>5年間にわたる事業計画が策定されており、それに関する指標と目標値が設定されている点や、各大学が役割分担しながら事業を推進する体制が構築されている点は評価に値する。各ワーキンググループの取組については、具体的な効果にまで落とし込むことはできていないが、初年度という点を考えると妥当と考える。</p> <p>各ワーキンググループの取組では、それぞれが石川中央都市圏が掲げる「住みやすさ日本一」にどのように連動し貢献するのか、今後の成果に期待したい。また、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い事業の遅延や中止については理解できるが、コロナ禍であつてもどのように事業を推進するかを検討や、またPDCAサイクルをそれぞれの取組に導入してみてはどうか。コロナ禍においても、次の展開を検討する必要があると考える。</p> <p>その他、「圏域の“住みやすさ日本一”に積極的に貢献する」という姿勢は、大学が地域に存在価値を高めるためには魅力的な要素である。例えば、本PFのフレーズを付けたポスターを学内に掲示し、各大学内で教員・学生・職員の認知度を向上させて三位一体で取り組むことにより、学生から「この取組参加できてよかった」や地域住民から「PFの取組に参加してよかった」と言ってもらえるようになれば、「学都金沢のブランド力」向上に寄与できるのではないかと。</p> <p>私大等PFの発足の目的の一つである“私立大学として足並みを揃える”ことを行いながらも、各大学の魅力・特色が発揮される私大等PFの今後の活動に期待する。</p>	

区分	
自治体関係者（地方自治体 職員）	
総合評価	評語の内容
B	S：非常に優れている A：優れている B：妥当である C：やや不十分である D：不十分である
評価に関するコメント	
<p>事業計画はしっかり立案されている。</p> <p>コロナウイルスの感染拡大がなければ、事業が進んでいたと思われるが、コロナ禍でできる事の限界があったのであろうと推察されるため、初年度の取組みとしては妥当であるとする。</p> <p>今後は、各大学のリソースに応じて、やり易い取組みや、やり難い取組みがあると思われることから、事業の傾斜配分を検討してもよいのではないかと。</p> <p>また、大学コンソーシアム石川と連携する中で、私大等 PF としての独自性を発揮しつつも、相乗効果も模索してどのように具体化するか検討してほしい。</p> <p>特に、地元就職については同じベクトルを有しており、県としても支援をしていきたい。大学と行政、企業、地域住民とオール石川で事業を推進できるとよいと感じる。</p>	

区分	
産業界関係者（企業団体 職員）	
総合評価	評語の内容
B	S：非常に優れている A：優れている B：妥当である C：やや不十分である D：不十分である
評価に関するコメント	
<p>初年度としての活動計画に加え、各ワーキンググループで現状を把握し、事業に展開しようとしていることが伺え、私立大学・短大が協力して事業を推進していく努力が認められる。次年度以降の本格的な実績に期待する。</p> <p>産業界と大学が連携する取組みにおいて、例えば就職や共同研究等では、石川中央都市圏内の企業のみを対象とすることなく、石川県や北陸の中の私大等 PF という位置づけを考慮し、広域的に企業との連携や人材育成を検討してほしい。また、これらの取組みを通して企業も大学と共に人を育てる必要があると感じており、産業界が大学を上手く活用した成果を情報発信していくことで、産学連携が広がり深みを増すと考える。</p> <p>さらに、全国的に18歳人口が減少するという中で、大学もその状況にあわせて姿を変えていく必要があり、それぞれの強みを特化して圏域内・圏域外（県外も含む）から学生募集をする必要があると思われる。それぞれの大学等の個性を出して、魅力的な人材を育成することを期待する。</p>	